

論文要旨

所属ゼミ	小林研究会	学籍番号	80218382	氏名	酒井 美智子
(論文題名)					
リストラクチャリングの手法としてのダイベスティチャーの研究					
(内容の要旨)					
<p>本論文では、この 10 年に渡る長期不況を脱するためには大企業のリストラクチャリングが必要であり、その手法としてダイベスティチャーが行われることが日本経済にとって重要であるとの考えた上で、有効なダイベスティチャーとはどのようなものかを研究課題とした。</p> <p>分析はダイベスティチャー案件 30 件の株価への相関を実証することで行った。ダイベスティチャーは株価に正の相関をすることを考え (仮説 1) た上で、さらにダイベスティチャーをそれ以前の環境要因として、対象事業の収益性 (‘Pre 要因’) (仮説 2) と、それ以後の回収資金の使用目的 (‘Post 要因’) (仮説 3) に分類し、Pre 要因と Post 要因によって株価に相関があるとの仮説を検証するために、イベントスタディを行った。また、4 社の事例研究を行うことで Pre 要因と Post 要因のいずれがより大きな影響があるか、リストラクチャリング計画全体の中でのダイベスティチャーがどのような位置付けにあることが望ましいかを検証した。</p> <p>結論としては以下の点が導き出されている。</p> <ol style="list-style-type: none">1、赤字事業のダイベスティチャーは株価に正の相関があり、躊躇なく行われるべきである。2、財務リストラクチャリングを行う際は、同時に包括的なリストラクチャリング計画を策定するべきであり、それは将来志向の観点に立った事業リストラクチャリングを含むべきである。3、ダイベスティチャーは業界他社よりも先んじて、具体的な包括リストラクチャリング計画の一貫として行った方が株価へ正の影響が大きくなる。					